Country Code の設定

- Country Code の設定について，1 ページ
- Country Code の設定に関する制約事項，2 ページ
- Country Code の設定（GUI），3 ページ
- Country Code の設定（CLI），4 ページ

Country Code の設定について

コントローラおよびアクセス ポイントは、法的な規制基準の異なるさまざまな国で使用できるように設計されています。 アクセスポイント内の無線は、製造時に特定の規制区域に割り当てられています（ヨーロッパの場合には E など）。しかし、Country Code を使用すると、稼働する特定の国を指定できます（フランスの場合には FR、スペインの場合には ES など）。 Country Code を設定すると、各無線のブロードキャスト周波数帯域、インターフェイス、チャネル、および送信電力レベルが国別の規制に準拠していることを確認できます。

次に、国番号の設定に関する注意事項を示します。

- 通常、コントローラごとに 1 つのCountry Code を設定します。この Country Code では、そのコントローラの物理的な場所とそのアクセス ポイントが一致している必要があります。 ただし、コントローラごとに最大 20 の国番号を設定できます。 これによって、複数の国がサポートされ、1 つのコントローラからさまざまな国にあるアクセス ポイントを管理できます。
- コントローラは、さまざまな規制区域（国）のさまざまなアクセスポイントをサポートしていますが、同一の規制区域については、すべての無線を 1 つのアクセス ポイントに設定する必要があります。 たとえば、Cisco 1231 アクセス ポイントの無線について、米国（-A）の規制ドメインに対して 802.11b/g 無線を設定し、イギリス（-E）の規制ドメインに対して 802.11a 無線を設定しないでください。 設定した場合、コントローラでアクセス ポイントに選択した規制ドメインに応じて、コントローラによりアクセス ポイントの無線のどちらか 1 つだけがオンになります。 したがって、アクセス ポイントの無線の両方には必ず同じ国番号を設定してください。

製品ごとにサポートされている Country Code の完全なリストについては、次の Web サイトを参照してください。http://tools.cisco.com/cse/prdapp/jsp/externalsearch.do?action=externalsearch&page=EXTERNAL_SEARCH

または

http://www.cisco.com/c/en/us/products/collateral/wireless/aironet-1300-series/product_data_sheet0900aecd80537b6a.html

- 複数の Country Code 機能を使用している場合、同じ RF グループに join する予定のすべてのコントローラは、同じ国で構成された一連の国々を同じ順序で設定する必要があります。
- 複数の国が設定され、RRM 自動 RF 機能が有効になっている場合、RRM は AP の国番号ごとに許可されたチャネルの統合を実行することによって取得したチャネルを割り当てます。 AP は、それぞれの PID 国番号に基づいて RRM によってチャネルが割り当てられます。 AP は、それぞれの PID 国番号と一致する法定周波数の使用のみが許可されます。 AP の国番号が、配置されている国で合法であることを確認します。
- RF グループ リーダーに設定されている国リストによって、メンバーが動作するチャネルが決定します。 このリストは、RF グループ メンバーに設定されている国とは無関係です。

日本の国番号について

Country Code は、各国で合法的に使用できるチャネルを定義します。 日本で使用できる Country Code は、次のとおりです。

- JP：コントローラに join できるのは、-J 無線のみです。
- J2：コントローラに join できるのは、-P 無線のみです。
- J3：WLC に join できるのは、-U、-P、および -Q（1550/1600/2600/3600 以外）無線ですが、-U の周波数を使用します。
- J4：コントローラに join できるのは、2.4G JPQU および 5G PQU です。

（注） 1550、1600、2600、および 3600 AP には J4 が必要です。

日本の規制区域のアクセス ポイントでサポートされているチャネルと電力レベルの一覧については、『*Channels and Maximum Power Settings for Cisco Aironet Lightweight Access Points*』を参照してください。

Country Code の設定に関する制約事項

- アクセス ポイントは、その国向けに設計されているチャネルでのみ動作できます。

（注） アクセス ポイントがすでに規制の電力レベルより高く設定されていたり、手動入力で設定されている場合には、電力レベルはそのアクセス ポイントが割り当てられている特定の国によってのみ制限されます。

Country Code の設定（GUI）

ステップ 1 次の手順で 802.11 ネットワークを無効にします。

a) [Wireless] > [802.11a/n/ac] > [Network] を選択します。
b) [802.11a Network Status] チェックボックスをオフにします。
c) [Apply] をクリックします。
d) [Wireless] > [802.11a/n/ac] > [Network] を選択します。
e) [802.11b/g Network Status] チェックボックスをオフにします。
f) [Apply] をクリックします。

ステップ 2 [Wireless] > [Country] を選択して、[Country] ページを開きます。

ステップ 3 アクセス ポイントがインストールされている各国のチェックボックスをオンにします。 複数のチェックボックスをオンにした場合、RRM チャネルと電力レベルが共通のチャネルと電力レベルに制限されることを記載したメッセージが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックして続行するか、[Cancel] をクリックして操作をキャンセルします。

ステップ 5 [Apply] をクリックします。
ステップ *3* で複数の Country Code を選択した場合、各アクセス ポイントが国に割り当てられます。

ステップ 6 次の手順で、アクセスポイントごとに選択されたデフォルトの国を表示し、必要に応じて別の国を選択します。

（注） Country Code を設定から削除する場合、削除する国に現在割り当てられているアクセス ポイントはリブートし、コントローラに再 join される際に、必要に応じて残りの国のいずれかに再度割り当てられます。

a) 次のいずれかの操作を行います。

- 802.11 ネットワークを無効のままにします。
- 802.11 ネットワークを再度有効にしてから、Country Code を設定しているアクセス ポイントのみを無効にします。 アクセス ポイントを無効にするには、[Wireless] > [Access Points] > [All APs] の順に選択し、目的のアクセス ポイントのリンクをクリックして、[Status] ドロップダウン リストで [Disable] を選択し、[Apply] をクリックします。

b) [Wireless] > [Access Points] > [All APs] の順に選択して、[All APs] ページを開きます。
c) 目的のアクセス ポイントのリンクをクリックします。
d) [Advanced] タブを選択して、[All APs > Details for]（[Advanced]）ページを開きます。

このアクセス ポイントのデフォルトの国が [Country Code] ドロップダウン リストに表示されます。

e) アクセス ポイントが表示された国以外でインストールされている場合には、ドロップダウン リストから正しい国を選択します。 このボックスに記載される Country Code は、アクセス ポイントの無線のうち少なくとも 1 つの無線の規制ドメインに適合します。

f) [Apply] をクリックします。

g) コントローラに join されたすべてのアクセス ポイントを特定の国に割り当てるには、この手順を繰り返します。

h) ステップ *a* で無効にしたアクセス ポイントを再び有効にします。

ステップ 7 ステップ *6* でアクセス ポイントを有効にしなかった場合は、802.11 ネットワークを再度有効にします。

ステップ 8 [Save Configuration] をクリックします。

Country Code の設定（CLI）

ステップ 1 次のコマンドを入力して、使用可能な Country Code をすべて表示します。
show country supported

ステップ 2 次のコマンドを入力して、802.11 ネットワークを無効にします。
config 802.11a disable network

config 802.11b disable network

ステップ 3 次のコマンドを入力して、アクセス ポイントがインストールされた国の Country Code を設定します。
config country *code1*[,*code2*,*code3*,...]

複数の Country Code を入力する場合には、各 Country Code をカンマで区切ります（**config country US,CA,MX** など）。

ステップ 4 決定を確認するプロンプトが表示されたら、**Y** を入力します。

ステップ 5 次のコマンドを入力して、Country Code の設定を確認します。
show country

ステップ 6 次のコマンドを入力して、コントローラに設定された Country Code の使用可能なチャネルの一覧を表示します。
show country channels

ステップ 7 次のコマンドを入力して、変更を保存します。
save config

ステップ 8 次のコマンドを入力して、アクセス ポイントが割り当てられた国を表示します。
特定のアクセス ポイントの概要を表示するには、アクセス ポイント名を指定します。 また、アクセス ポイントのフィルタリングを行うときは、ワイルドカード検索を使用できます。

show ap summary

ステップ 9 ステップ *3* で複数の Country Code を入力した場合は、次の手順に従って特定の国への各アクセス ポイントを割り当てます。

a) 次のいずれかの操作を行います。

- 802.11 ネットワークを無効のままにします。
- 802.11 ネットワークを再度有効にしてから、Country Code を設定しているアクセス ポイントのみを無効にします。 ネットワークを再び有効にするには、次のコマンドを入力します。

  config 802.11{**a** | **b**} **enable network**

  アクセス ポイントを無効にするには、次のコマンドを入力します。

  config ap disable *ap_name*

b) アクセス ポイントを特定の国に割り当てるには、次のコマンドを入力します。
config ap country *code* {*ap_name* | **all**}

選択した Country Code が、アクセス ポイントの無線のうち少なくとも 1 つの無線の規制ドメインに適合していることを確認します。

（注） ネットワークを有効にしてアクセス ポイントを無効にしてから、**config ap country** *code* **all** コマンドを実行すると、指定した Country Code が無効にしたアクセス ポイントにのみ設定されます。 他のアクセス ポイントは、すべて無視されます。

c) ステップ *a* で無効にしたアクセス ポイントを再び有効にするには、次のコマンドを入力します。
config ap enable *ap_name*

ステップ 10 ステップ *9* で 802.11 ネットワークを再度有効にしなかった場合には、ここで次のコマンドを入力して有効にします。
config 802.11{**a** | **b**} **enable network**

ステップ 11 次のコマンドを入力して、変更を保存します。
save config